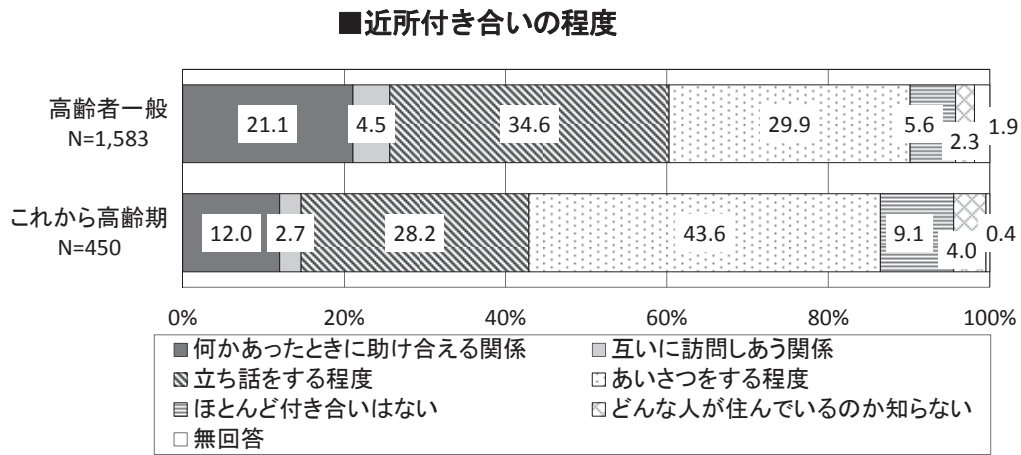


6 地域のつながり

(1) 近所付き合いの程度

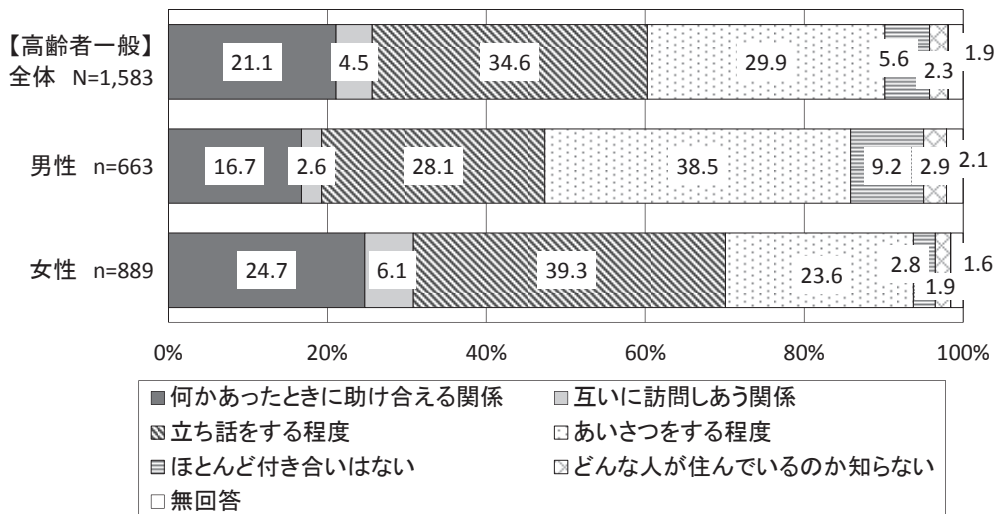
- 高齢者一般では「立ち話をする程度」が最も多く 34.6%で、「あいさつをする程度」(29.9%)と回答した人も含めた“立ち話やあいさつ程度”が 64.5%で、「何かあったときに助け合える関係」と「互いに訪問しあう関係」を合わせた“助け合いや訪問しあう関係”(25.6%)を上回っている。
- これから高齢期では、「あいさつをする程度」が最も多く 43.6%、「立ち話をする程度」(28.2%)と回答した人も含めると、“立ち話やあいさつ程度”が 71.8%で、「何かあったときに助け合える関係」と「互いに訪問しあう関係」を合わせた“助け合いや訪問しあう関係”(14.7%)を大幅に上回っている。



【高齢者一般】

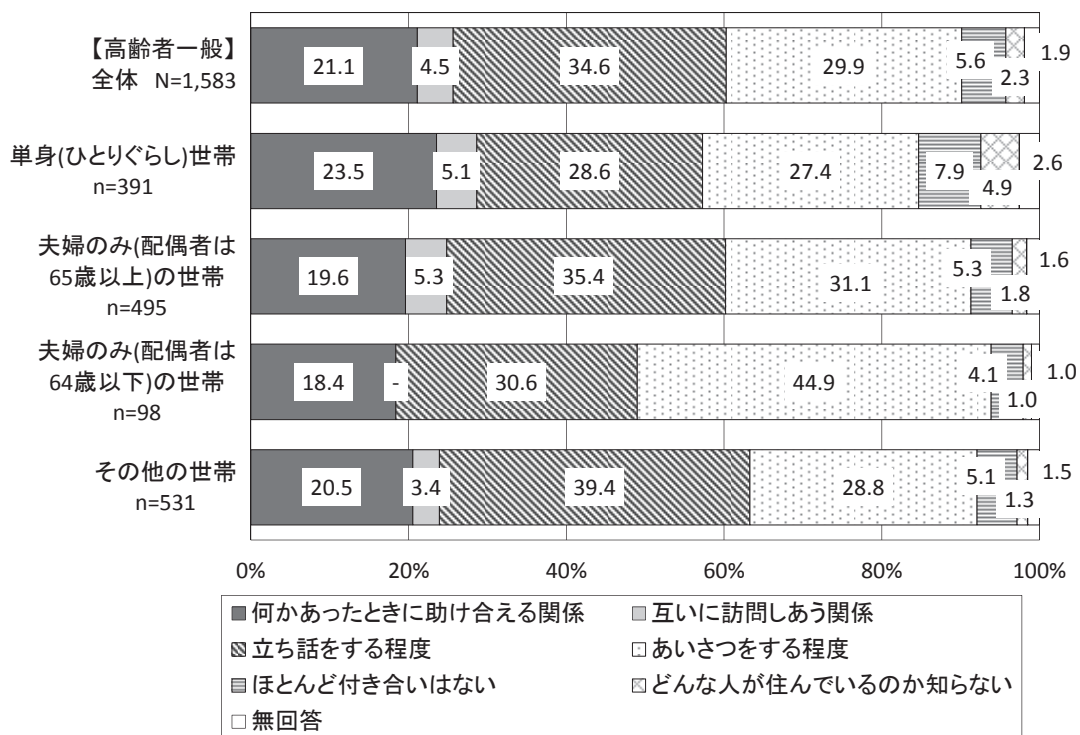
- 性別にみると、女性では「何かあったときに助け合える関係」と「互いに訪問しあう関係」を合わせた“助け合いや訪問しあう関係”が約3割を占めるのに対し、男性では2割程度となっている。また、「ほとんど付き合いはない」と「どんな人が住んでいるのか知らない」を合わせた“近所付き合いが希薄な関係”は、男性が 12.1%、女性が 4.7%となっている。

■近所付き合いの程度<高齢者一般：性別>



○世帯構成別にみると、夫婦のみ（配偶者は64歳以下）の世帯では「立ち話をする程度」と「あいさつをする程度」を合わせた“立ち話やあいさつ程度”が最も多く75.5%となっている。

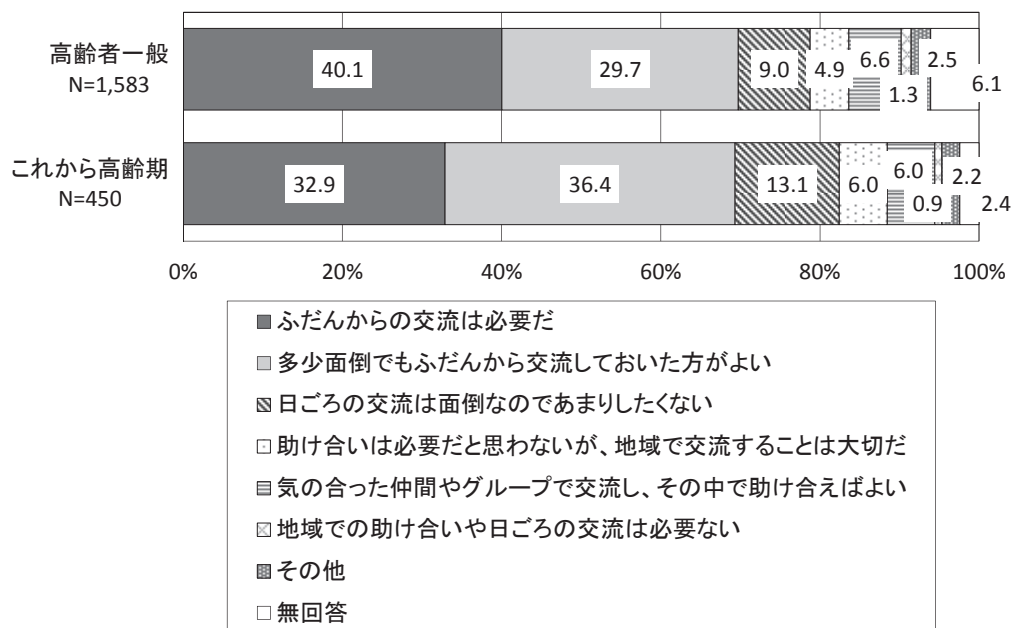
■近所付き合いの程度＜高齢者一般：世帯構成別＞



(2) 近所付き合いや地域住民の交流の必要性

○高齢者一般、これから高齢期ともに「ふだんからの交流は必要だ」と「多少面倒でもふだんから交流しておいた方がよい」を合わせた“近所付き合いや地域住民の交流は必要”が約7割を占めている。

■近所付き合いや地域住民の交流の必要性

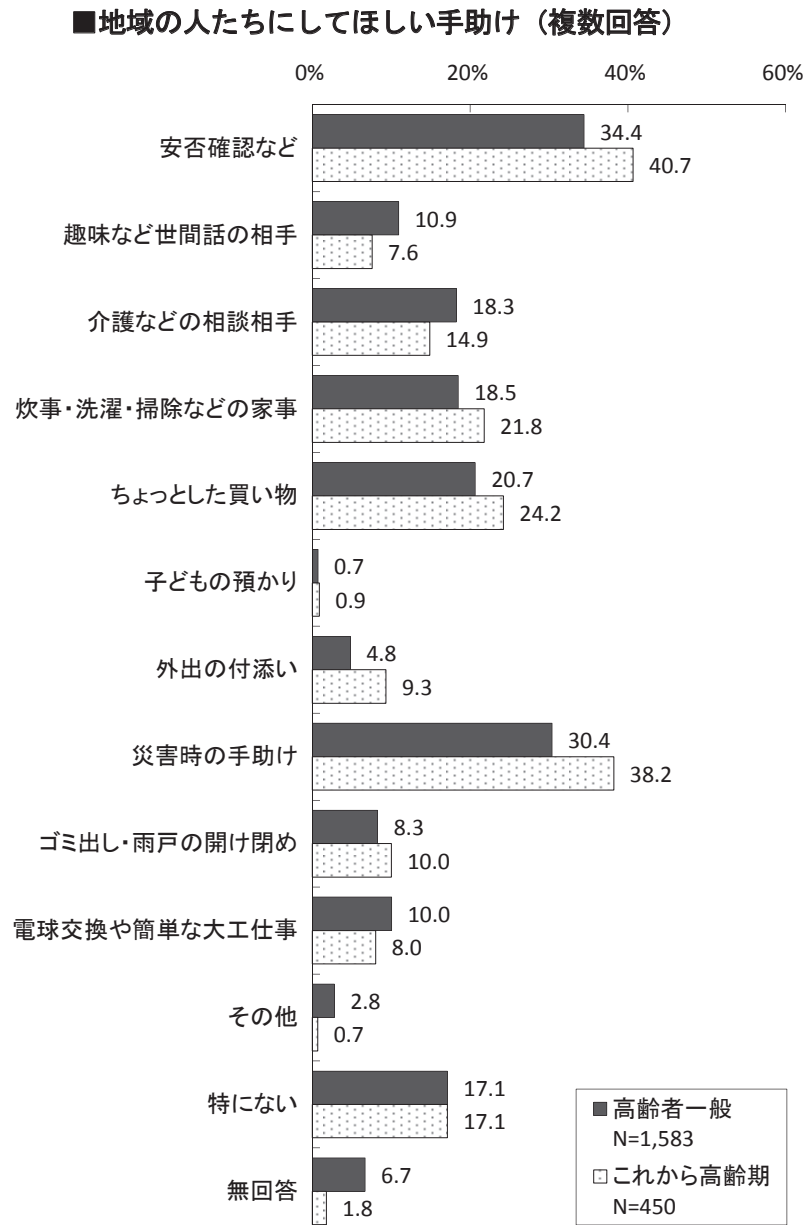


(3) 手助け

① 地域の人たちにしてほしい手助け

○高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにしてほしい手助けは、高齢者一般、これから高齢期ともに「安否確認など」が3割強～4割で最も多く、次いで「災害時の手助け」「ちょっとした買い物」が続いている。

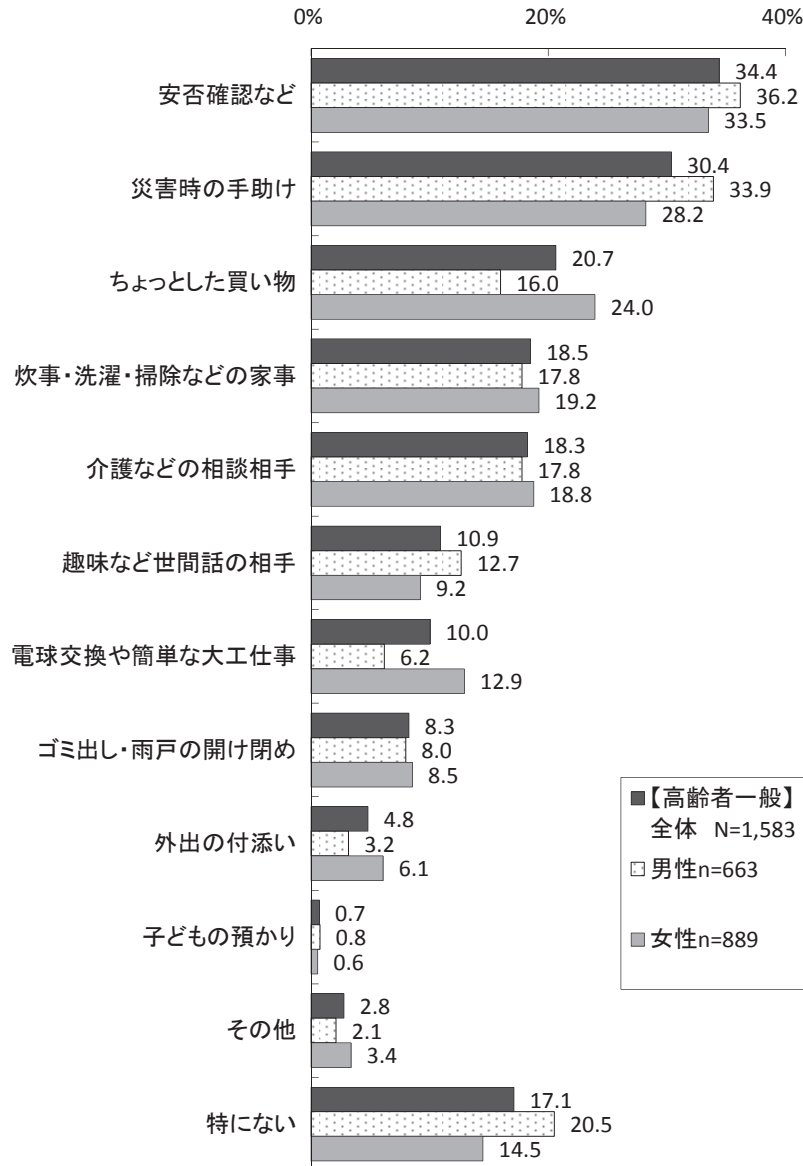
○一方で、高齢者一般、これから高齢期ともに2割弱が「特にない（手助けは不要）」と回答している。



【高齢者一般】

- 性別で見ると、男性に比べ女性では「ちょっとした買い物」（24.0%）、「電球交換や簡単な大工仕事」（12.9%）が多くなっている。
- 一方、男性では、「特にない」が約2割を占めている。

■地域の人たちにしてほしい手助け（複数回答）＜高齢者一般：性別＞

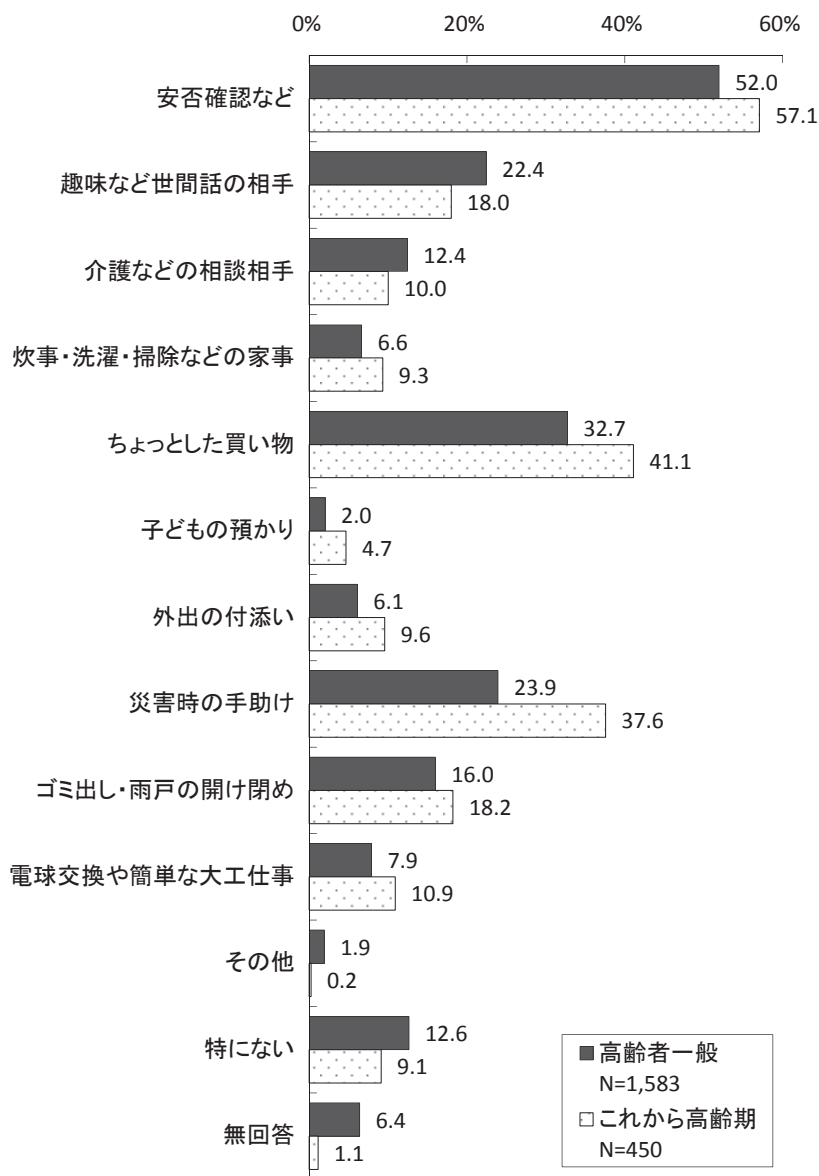


※ 無回答は省略

② 地域の支え合いとして自身ができること

○高齢者一般、これから高齢期ともに「安否確認など」が5割を超えて最も多く、次いで「ちょっとした買い物」「災害時の手助け」が続いている。

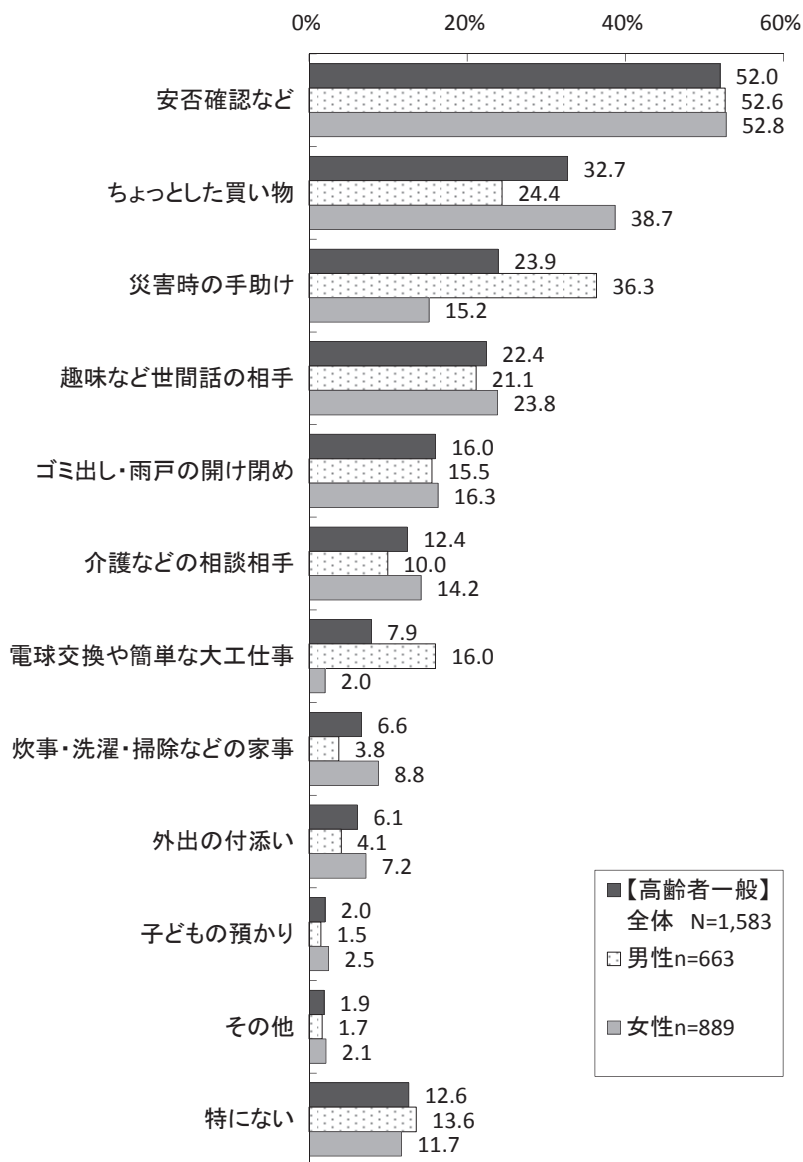
■地域の支え合いとして自身ができること（複数回答）



【高齢者一般】

- 性別にみると、女性に比べ男性では、「災害時の手助け」（36.3%）、「電球交換や簡単な大工仕事」（16.0%）が多くなっている。
- 男性に比べ女性では、「ちょっとした買い物」（38.7%）をあげる人が多い。
- 最も多くあげられている「安否確認など」では、男女の差はみられない。

■地域の支え合いとして自身ができること（複数回答）＜高齢者一般：性別＞



※ 無回答は省略